

平成 27 年度 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業成果報告にあたって

広島大学 生物生産学部長 吉 村 幸 則

広島大学では、平成 25 年度に「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」事業が、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択されました。平成 27 年度は 5 年間のプロジェクト期間のちょうど中間にあたります。この事業は、①平和発信、②障がい者支援、③中山間地域・島しょ部対策〈条件不利地域対策〉、の 3 つの領域が設定されています。生物生産学部は、「中山間地域・島しょ部対策」領域について、その教育・研究プロジェクトの中心を担っております。

周知のように、広島県の中山間地域や瀬戸内海島しょ部では、過疎化と高齢化が進み、地域社会の条件不利化が進んでいます。広島大学では、住民の皆様、自治体や企業・団体等からのご支援をいただき、学生たちがこの地域社会が抱える問題への認識を深め、解決に向けて考え、主体的に行動できるよう学生を養成しています。それを通じて、地方創生の拠点形成を目指しています。平成 27 年度は、前年度に引き続いて、体験学習やフィールドワークを取り入れた教育プログラムを運営し、地域に根ざした課題解決をできる人材の育成をめざしました。

大学 1 年生が参加する教養ゼミでは、農漁業体験を中心に様々な体験をしました。参加学生の多くは、地域社会がもつ寛容さと奥深さを学び、同時に、解決しなければならない問題が山積していることを認識しました。体験学習を通じて、地域活性化に向けて何をしたらよいか、学生たちが真剣に考えるようになりました。その成果の 1 つとして、地元の食材を使ったアイスクリームの商品開発も生まれています。地域でご活躍されている方々をお招きする特別講義、地域体験を深めるインターンシップは、昨年度にも増して充実したものになりました。第 2 回円卓フォーラムでは、市町や受入地域の皆様、学生、教員が円卓になって、地域志向型教育のめざすべき方向、大学の人材育成がどのようにして地域貢献につながるかなどについて、意見交換をしました。また、WEB サイト、プレスリリースなどで情報発信を盛んに行いました。

平成 27 年度から、この事業は地（知）の拠点大学による地方創生推進事業になりました。私たち中山間地域・島しょ部対策領域でも、「地域連携から地方創生へ」をテーマに掲げ、大学が地域と連携する意義、地域が大学と連携する意義を考えてまいりました。

本事業は地域をはじめ多くの関係各位に支えられて着実に成果をあげております。その成果が、地域の皆様に少しでも役立てればと幸いです。

今後とも、皆様方の格別のご指導・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。